

【園の教育目標】心身ともにたくましく思いやりのある子

つよい体・がんばる気持ち・ゆたかな心・考える力

【令和6年度の園評価より】

- ・園外保育と異年齢交流の指導計画の作成と改善を図る。
- ・継続的に36の基本動作を取り入れ遊びの工夫や隙間時間の活用を行う。
- ・4,10,1月の園内研にて、全職員が子どもの実態や支援について話し合い、共通認識をする。
- ・全クラスの公開保育を行い、互いの保育を高め合うための研修の在り方を具体化する。

4段階評価

○保育者

☆関係者

●課題

観 点	短期目標	自己 評価	保護者評価	評価及び意見の概要
保育・ 幼児教育の 充実	指導計画の改善 園外保育と異年齢交流のねらいと手立てを明確にした年間計画を作成し実施後、改善していく。	2.7	3.7	<p>○気候等で差があるが、園外保育の年間計画に沿って実践できた。</p> <p>○わくわくタイムの中では、自然な形で大縄跳びや鬼ごっこなど異年齢で関わって遊ぶことができ、刺激を受け挑戦したり、教えたりする姿が見られた。</p> <p>☆小学校でも交流活動を増やしている。園目標の「思いやりのある子」は安井地区の課題でもある。いつでも他年齢の姿が見られることは憧れや目標になる。</p> <p>☆わくわくタイムで他年齢と遊ぶことは、思いやりや気づきができ良いことである。職員間がいつでも話し合える状態である。</p> <p>☆和太鼓を通して、教えることや教わることができる異年齢での体験により、子どもの心の育ちが育まれている。</p> <p>●交流の機会が計画通りでない時期があった。</p> <p>●関わる年齢が偏った。様々な学年とかかわりが持てるように計画し、思いやりや自尊心がもてるようにしたい。</p> <p>●年間計画に対して保育者の中でも意識や捉えが違う。周知と見直しができるように明確に位置づけ掲示しておくとうい。</p>
	健康づくり 36の基本動作を取り入れた遊びの工夫と園外保育や隙間時間の活用を行う。	3.1	3.8	<p>○同じ場所に何回も散歩に行くことで、季節の変化に気付くことにつながった。また、発達に合わせて無理なく歩く距離を伸ばしたことで歩く力がついた。</p> <p>○意図的にチャレンジタイムを設けることや、体幹づくりや手遊びなど活動と活動の間のちょっとした時間の活用を意識して取り組むことができた。</p> <p>○年齢発達に合わせた内容のチャレンジカードの活用や実態や興味に合わせた遊びの内容を取り入れることで、子どものやる気となり繰り返し挑戦することにつながった。</p> <p>☆一人一人の興味にあった遊具もあり、どの子も周りを気にすることなく夢中に遊んでいる姿は印象的であった。</p> <p>☆ゲームや動画を見る家庭が多い中、体を動かして遊ぶ時間は大切である。</p> <p>●36の動きを意識し週案に記載するが、どうしても偏りがちになった。学期や月ごとで計画をたて、実践ができるようにしていきたい。</p> <p>●36の動きについて、園での取り組みの意図やねらいが家庭にも伝わるよう知らせていくとうい。</p>
子育て 支援の 充実	多様なニーズに 対応した支援 支援児に対する多様な支援の在り方を職員間で話し合い、共通理解を図る中で、支援のあり方を探る。	3.7		<p>○園内研修を通して他クラスでの支援の方法や様子を知ることができた。また、個に応じた支援方法を考慮し、スモールステップの取り組みができた。</p> <p>○外部機関との連携は支援方法を知る機会となり、相談をすることができて良かった。</p> <p>☆大人の価値観や子どもへの声のかけ方が違ってくると、子どもは自分の都合の良いほうだけ受け入れるので話し合いは大切である。</p> <p>☆外部との連携や心理士や行政を含めたケース会議は、保育士の見立てる力を育てる良い方法である。</p> <p>●延長保育担当者、休憩代替えに入る職員も含め全職員が、支援児の実態について知り、支援方法を考え話し合うとうい。また、そのための時間と場づくりの工夫をする。</p> <p>●困りやねらいを明確にすることで、関わり方や活動を継続的に実践し評価することにつながった。今後も、アセスメントを大切にしていきたい。</p>
	研修研究 全職員が公開保育を行い、「話し合う」「語り合う」機会を設け、互いの良さを認め合える職員集団となる。	2.9		<p>○月案やねらいを共有できるように、話し合いのもち方を工夫することができた。</p> <p>○公開保育で保育実践を見たり、他クラスの環境を知ろうと意識したりすることで、保育に活かすことができた。</p> <p>○ワールドカフェの話し合いでは、意見を率先的に伝え話し合うことができ、多様な意見が学びとなった。</p> <p>☆保育士の力量アップのためには、他の保育士の姿を直接見ることである。先生同士の困りを救える研修ができるとうい。</p> <p>●他クラスの取り組みを見て、保育に取り入れていけることは良いことである。</p> <p>●抽出児の育ちを追って、深く考え語り合える研修の場にしていきたい。</p> <p>●意見を率先的に言えない職員もいる。どんな意見でも受け入れ認め合える雰囲気づくりを心掛けていきたい。</p>

【次年度に向けて】

- ・安全の配慮、マニュアルの確認、安全で安心できる環境づくり、実際に起きた事故等(アレルギーやけいれんなど)を想定した訓練を行い、全職員の危機管理意識の向上を図る。
- ・自分の思いが伝わる喜びや相手の思いに気づいたり聞いたりできる力を育む。異年齢のかかわりを通して思いやりや優しい心を育てる。
- ・子どもが主体的に取り組むことができる保育展開をおこなう。サークルタイムなど子どもの意見が伝えやすい環境づくりをし、気持ちを受け止められる保育者となる。
- ・職員間のコミュニケーションや、意見交流など話し合いの時間確保や方法の工夫をする。